

県医師連盟機関紙

第13号

発行責任者  
県医師連盟委員長 池田琢哉

平成24年6月11日

# 鹿児島県医師連盟新聞

編集・発行  
鹿児島県医師連盟  
鹿児島市中央町8-1  
電話 099-213-1011  
FAX 099-213-1012  
印刷 南日本新聞開発センター

## 知事候補に伊藤氏推薦



伊藤知事と激励の握手をかわす池田琢哉鹿児島県医師連盟委員長



伊藤知事に推薦状を手渡す池田琢哉鹿児島県医師連盟委員長

### 2期8年の実績を評価

任期満了に伴う鹿児島県知事選挙は6月21日に告示され、7月8日投票が行われる。今回の選挙には、3期目をめざす現職の伊藤祐一郎氏(64)と市民団体「反原発・鹿児島ネット」事務局長で出版社代表の向原祥隆氏(55)の2人が立候補を表明しており、「原発」を争点

にした一騎打ちになる公算が高まっている。鹿児島県医師連盟は、1月26日に開いた執行委員会で、伊藤氏の推薦を決めた。これにより、都市医師連盟を中心に支援活動を展開する。鹿児島県医師連盟の池田琢哉委員長は、伊藤氏の推薦理由について「2期8年の実績を評価した。行政改革等をやり遂げた手腕も評価できる」としている。(裏面に伊藤県政8年間の主な実績など)



#### 伊藤知事に力強いご支援を

この度の鹿児島県知事選挙で、私共鹿児島県医師連盟は、現職で3期目をめざす伊藤祐一郎知事を推薦いたしました。会員の皆様方のご支援・協力をよろしくお願いいたします。

さて、伊藤県政が誕生して2期8年が過ぎようとしております。すでにご承知のとおり、昨年の9月議会において、伊藤知事は7月の次期知事選挙への出馬表明をされました。

知事は就任以来、マニフェストや「かしま将来ビジョン」に基づき、「力みなぎる・かごしま」「日本一のくらし先進県」の実現に向けて、全力で取り組んでこられました。特に、就

任時に最大の課題であった行政財政改革については、懸命の努力を続けられた結果、当時451億円あった財政不足額が歳出の削減などにより、ほぼ解消できるまでになっています。健全財政への取り組みとして、高く評価したいと思っております。

伊藤知事には引き続き、県政のトップリーダーとして、持ち前の時代を見通す先見性と卓越した手腕をいかんなく発揮していただきたいと考えております。会員の皆様方の温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

鹿児島県医師連盟  
委員長 池田 琢哉



#### 郷土発展のため全力を尽くす

医師連盟の皆さまには、かねてから様々な面で私を支えていただき、また、県政の推進にも多大な御協力をいただいていることに対し、心から感謝申し上げます。

私は、平成16年7月の知事就任以来、県民の皆さま方にお約束をいたしましたマニフェストや「かしま将来ビジョン」に基づきまして、「持続可能性への挑戦」「産業おこしへの挑戦」「鹿児島おこしへの挑戦」の3つの挑戦に取り組ま

「力みなぎる・かごしま」「日本一のくらし先進県」の実現に向けて全力を挙げて取り組んでまいりました。就任以来、幸いにも全体として、概ね順調に県政を推進することができているのではないかと考えております。

さらには本県で開催いたしました「全国健康福祉祭」や「全国健康福祉祭」や「全国健康福祉祭」など、関係者をはじめとする県民の皆様方の御協力をいただきながら成功裏に終了し、参加者や来場者から、鹿児島らしさやおもてなしの心にあふれたすばらしいものであったという高い評価をいただくなど「本物。鹿児島県」の多彩な魅力の情報発信につながったものと考えております。

これらの時代におきましては、時代の状況変化に的確に対応しながら、たゆまざる改革の志を持って、持続可能な行政構造の維持・構築などの諸課題に全力で取り組み、すべての県民が郷土に誇りを持ち、生涯を安心して過ごせるような「力みなぎる・かごしま」づくりに果敢に挑戦していく必要があると考えております。

鹿児島県知事  
伊藤祐一郎

の共通の課題であります環境、食料、医療・福祉に重点を置きつつ、

また、奄美豪雨災害や新燃岳の火山災害をはじめとする様々な自然災害や口蹄疫、鳥インフルエンザ等の突発的な危機事象も発生いたしました。災害復旧や被害の拡大防止に向けた迅速・的確な対応が図られたものと考えております。

# 伊藤県政 8 年間の主な実績

- 平成16年度に451億円あった財源不足額を解消**
  - 平成23年度、24年度と2年連続で解消の見込み
- 職員数の縮減・人件費の見直し**
  - 平成17年3月と比較して1,100名を超える縮減、人件費261億円削減(一般財源ベース)
- 県本土・熊毛地域を対象にドクターヘリを導入**
  - 救急医療体制の更なる強化を図るため、平成23年12月から、浜町ヘリポートを出勤ヘリポートとするドクターヘリを導入
- こども総合療育センターを設置**
  - 子どもの心身の発達に関する相談・診察や、専門的な療育を行う施設として、平成22年6月に開設
- 多子世帯等へ保育料の減免制度を導入**
  - 平成21年4月から、子育て世帯の経済的負担を軽減するため、認可保育所、私立幼稚園に第3子以降の子どもを入所就園させる多子世帯に対し保育料等を助成する制度を導入
- 全国健康福祉祭「ねんりんピックかごしま2008」を開催**
  - 開催期間：平成20年10月25～28日
  - 参加人数：選手・役員約1万人、観光客等も含め約54万人
- 子ども・若者総合相談センターを設置**
  - 自立・社会参加に困難を抱えている子ども・若者に関する総合相談窓口として、平成22年7月に開設
- 平成22年4月に宮崎県で大量発生した口蹄疫の進入を阻止**
  - 口蹄疫の県内進入を阻止するため、農場や車両の消毒など緊急の防疫対策を実施
  - ※併せて、口蹄疫の発生により被害を受けた畜産農家をはじめ、中小事業者等への経営支援を実施したほか、観光客誘致のためのキャンペーン等を実施
- 長年の課題であった公共関係による産業廃棄物管理型処分場の整備に着手**
  - 平成23年7月に整備に着手。平成25年度中の完成を目指し、今後とも着実な整備を推進
- 屋久島 CO<sup>2</sup>フリーの島づくりに向けた取組の推進**
  - 平成21年8月に研究会を設置し電気自動車の導入・普及等について検討
  - 平成22年度から電気自動車・充電設備の購入・設置に要する経費の一部を助成
- 国内外において「本物。鹿児島県」のトップセールスを実施**
  - 県産農林水産物や観光などを国内外でPR(平成23年度はシンガポールなどで6回実施)
- 平成16年の部分開業から7年九州新幹線全線開業**
  - 鹿児島中央～熊本間利用者数対前年比165%
  - 全線開業効果を「増やす」、「広げる」、「活かす」ための取組を推進
  - 魅力ある観光地づくり事業、大隅地域レンタカー無料プラン事業など
- 大隅農業・加工技術研究プロジェクトを推進**
  - 農業を基盤とした大隅地域の活性化に必要な加工技術支援拠点のあり方について検討するため、平成23年9月に「検討委員会」を設置
  - 平成24年3月の「委員会提言」等を踏まえ、今後、支援拠点を整備
- 台北線の開設などアジアの主要都市(ソウル・上海・台北)との定期航空路線を整備**
  - 台北線：平成24年3月25日就航(週3便)
  - 上海線：平成14年8月28日就航(週2便)
  - 平成23年8月1日から週4便に増便
  - ソウル線：平成2年5月29日就航(週2便 ※現在は週3便)
- 志布志港の国際バルク戦略港湾への指定**
  - 国際バルク貨物の一括大量輸送の拠点港湾として、平成23年5月に、九州で唯一、国際バルク戦略港湾(穀物)の指定を受ける
- 奄美・沖縄航路の拠点機能の強化に向けた鹿児島新港の整備推進**
  - 「奄美・沖縄航路の位置付け検討委員会」の提言及び「鹿児島港(本港区・新港区)の在り方懇談会」の取りまとめを受け、改修計画を決定
  - 平成25年度中の1バース供用開始を目指し、平成23年度から耐震強化岸壁、ポーディングブリッジ、旅客ターミナル等の整備に着手
- 全国都市緑化フェア「花かごしま2011」を開催**
  - 開催期間：平成23年3月18日～5月20日
  - 来場者数：約96万人(目標の80万人を大幅にクリア)
- 国民文化祭の平成27年本県開催が内定**
  - 平成23年12月の開催内定を受け、24年2月に「基本構想策定委員会」を設置するとともに、4月に総務部県民生活局内に「国民文化祭準備室」を設置
- 小学校低学年30人学級の導入**
  - 義務教育の入門期において、基本的な生活習慣や学習習慣の定着をはかるため、より一層きめ細かな指導ができるよう、平成17年4月から30人学級を導入
- 次期国民体育大会の平成32年開催が内々定**
  - 平成24年度当初予算において、施設整備及び運営等の経費に充てるための基金(50億円)を設置するとともに、天皇杯・皇后杯獲得に向けて競技力向上対策事業を充実
- 特別支援学校の整備・充実**
  - 鹿児島盲学校の移転・開校(平成23年4月)
  - 高等特別支援学校の開校(平成24年4月)
  - 中種子養護学校高等部設置(平成24年4月)
  - 鹿児島養護学校の移転(平成25年4月予定)
  - 鹿児島聾学校の移転(平成27年4月予定)

## 安心して医療が受けられる環境を

日本医師連盟執行委員会 横倉委員長あいさつ要旨

日本医師会、医師連盟を取り巻く環境は日々厳しさを増しているが、平成21年8月の政権交代以降、私も平成22年の4月から前期執行部の副委員長として会員の協力をいた

底して説明をしていくことが必要である。また日医連としても数々の課題が山積しているが、特にその中でも来年7月に行われる参議院議員選挙の比例代表選挙である。我々の代表をどうするかという問題を解決しなければならぬ。参議院の比例代表選挙というものは、立候補の届出団体において政党からの一括届出しか認められていない制度であるので、現下の政治状況、政治情勢においてはその取扱いを

向性を打ち出さなければならぬと考えているので、しっかりと議論のもとで、日本医師連盟が一致団結できるように、方向性を決めさせていただきようをお願いしたい。前執行部からはじめた若手会員を対象とした医政活動研究会をより充実拡大したものにすべく企画実施してもらいたいと考えている。

日本医師会の会員数は年々減少傾向にある。日本医師会の医療政策を実現するには、日本医師連盟の政治活動と選挙活動が不可欠であり、日本医師会の組織の存続を考えた時、我々に続く次の世代、また次の世代とバトンタッチができる人材を次々に育ててい

近の参議院のねじれ現象をみるにつけ、従来以上に野党に対する対応をなおざりにするわけにはいかないという面もある。今後とも与党を中心に野党に対しても政治活動を徹

おいてはその取扱いを、現下の政治状況、政治情勢に間違えると極めて深刻な事態になると予想されるので、慎重にも慎重な対応が必要である。早急に検討をはじめ、今年度の夏頃までには明確な方

の医療政策を実現するには、日本医師連盟の政治活動と選挙活動が不可欠であり、日本医師会の組織の存続を考えた時、我々に続く次の世代、また次の世代とバトンタッチができる人材を次々に育ててい

策実現にむけて努力邁進し、我々の最大目標である国民が安心して医療を受けられる環境作りを取組んでいきたいので、ご協力をお願いしたい。

## かごしまニューライフプラン

### 「3つの安心」

### 「3つの安心」実現後のイメージ

#### 第一の安心「仕事」

##### 若者世代

- ★生涯生活設計を描ける安定的な働く場の確保
- ★若者が勤労観・職業観を持って社会に参画

##### 働き盛り世代

- ★「日本一の共働きしやすい県」の実現

##### 高齢世代

- ★就労を希望する高齢世代が、生きがいを持って活躍

##### 働く場

- ★鹿児島の可能性を生かした働く場の創出・確保

#### 第二の安心「生活」

##### 若者世代・高齢世代の子育て・教育

- ★「子育て・教育」の社会全体での支え合い

##### 高齢世代の老後・介護

- ★高齢者が社会と関わりを持ちながら送る豊かな人生

##### すべての世代の健康・医療

- ★どこに住んでいても、いつでも受けられる医療サービスや健康づくりの支援

#### 第三の安心「絆」

##### 人や地域とのつながり

- ★人や地域との交流の中で、生涯を通じて「役割」や「居場所」がある豊かな人生

##### 地域における互

- ★様々な主体が参画・連携した、子育てや介護を支える地域サポート体制の確立